

第三者コメント

大阪ガス株式会社 統括産業医 岡田 邦夫先生より、日本ユニシスグループの取り組みに関するご意見を頂戴しました。岡田先生には、日本ユニシス関西支社で2010年1月に開催されたCSRセミナーにて、「組織の成長を支える健康経営」と題したご講演をいただいています。



人と人との“間”に在るコミュニケーション

大阪ガス株式会社 人事部 健康開発センター 統括産業医 岡田 邦夫 様



日本ユニシス関西支社
「CSRセミナー」にて

自分自身に“生きがい”を問いかける内面的なコミュニケーション、職場やチームワークにおけるコミュニケーション。これらのコミュニケーションから、人は想像を超えるパワーを授かることがある。そのパワーは自らの生きがいとするものに、また人と人とのわずかな隙間にもエネルギーを注入し、人の心を動かす力・行動力となり、ひいては「自己実現」に近づくことをも可能とする。

生まれ育った環境や物事に対する価値観は人それぞれ異なるが、コミュニケーションや言葉というツールによって、自分との相違や多様性を受け入れる心を持つことができる。そして、その言葉の交わりの積み重ねによって、人は目標を共有することができ、相互への“期待”のネットワークが生まれ、大いなるパワーが生まれていく。

人との結びつきから成る「チーム」が作り出すビジネスは一層進化し、組織マネジメントがもたらす生産性の向上によって、大きな成果が得られるようになってきた。そのチームは、企業で言え

ば、社員の心身の健康増進に向けた活動や、安心して働ける職場環境の実現によって、さらなる大きな創造力を得ることができる。

人生において打ち込めるものを持つ人は幸せである。「生きがい」は内面的な問いかけによって自ら見つけていくべきものである一方、「働きがい」は職場という環境や、人と人との“間”に在るコミュニケーションを通じてこそ、確かなものにすることができるのではないだろうか。「寝食を忘れるほど仕事に打ち込むことができた」、「この会社に勤めることができてよかった」、と振り返られるような職場人生を送りたいものである。

人が抱く「夢」の実現を追い求めている企業、人を中心に据えたワークスタイルを具備した企業は、その基盤を成す「チームワーク」を大切にしている。日本ユニシスグループの活動には、人と人、人と組織を大切にすることが随所に垣間見られる。その心をさらに大きく育てていただきたい。

日本ユニシスグループから

社員の「働きがい」はコミュニケーションによって支えられていると考えています。社内のコミュニケーションでは、経営理念や方針を伝えること、そして、各部署や個人が会社や社会の役に立っていることを感じられること、これら二つのコミュニケーションが重要だと思っています。岡田先生はこれを「人と人との間に在る」と表現し、あらゆる動物のなかで人間にしかできないコミュニケーション、つまり「言葉の交わり」から大いなるパワーが生まれるとの考え方を

を示してくださいました。

今回のCSR報告書では、「社員」に焦点をあて、各人が何を考え、仕事を通じてどのような思いを持つに至ったかを、それぞれの視点から紹介してもらいました。人間が思いを伝え合い、「夢と希望」を持つためのコミュニケーションのツール、これが言葉の特質だと思います。これからも「言葉」によるさまざまなコミュニケーションを大切に、より大きなパワーを生んでいければと考えています。

日本ユニシス CSR推進部 部長 多田 哲